

【事例発表】

団体名：株式会社きぼう国際外語学院

沿革

- 平成13年12月 学校法人ティピィシィ学院より出資し、「就学生」受け入れ日本語学校として群馬県前橋市にて開校
- 平成15年4月 財団法人日本語教育振興協会（日振協）へ加盟、東南アジアの就学生受け入れ開始
- 平成16年7月 JITCO（現 公益財団法人 国際研修協力機構）認定日本語教育機関となり、前橋・小山・宇都宮校で外国人研修生向け日本語教育開始
- 平成20年3月 前橋校閉鎖に伴い、就学生受け入れ休止、同時に日振協を退会
- 平成20年4月 本校を栃木県小山市へ移転し、外国人研修生向け日本語教育に特化
- 平成22年7月 EPAに基づく外国人介護研修生の為の介護福祉士受験対策講座（主に日本語）を開始
- 平成22年8月 外国人「定住者」向けビジネススキルアップ（職業訓練）講座を開講
- 平成22年10月 webを利用した日本語能力測定システム（にほんごはかるくん）運用開始
- 平成24年8月 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 プログラムB受託
- 平成25年8月 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 プログラムB受託
- 平成26年1月 会社名を「株式会社きぼう国際外語学院」に変更
- 平成26年4月 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 プログラムB受託
- 平成27年4月 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 プログラムB受託
- 平成28年4月 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 プログラムB受託
- 平成29年4月 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 プログラムB受託



学校概要

現在、この学校に留学生はひとりもいません。当校は、技能実習生への日本語教育を中心とした日本語学校です。毎年約1,000名の実習生が当校で日本語を学びます。2014年8月現在、当校で学んだ実習生は8,000名強となりました。その他にも、上記の通り様々な日本語教育を実践しています。EPA 介護福祉士候補生に対する介護福祉士国家試験対策講座、定住者向けの職業訓練講座、その他生活する外国人向けのプライベート日本語レッスンなどです。

今までの日本語教育の枠組みでは対応できなかった「日本語学習希望者」の「きぼう」をかなえるべく、学習者の希望にできるだけ合わせた日本語教育を行っています。

「ここだからできる、ここでしかできない」をモットーに、実習生、地域の方々への日本語サポートをしています。

文化庁事業を取組むにあたって

「なぜ、株式会社が文化庁事業に取り組んでいるのか」とよく聞かれます。そのときは、「『企業だからできること』＝『ここだからできる』ことがないかということにチャレンジしています」と答えます。「日本語教育」を「企業」の視点で考え、それをいろいろな立場の方と共有することこそ、これからの日本社会での「連携」だと考えています。外国人にとっての日本語教育という視点だけではなく、日本語教師にとっての日本語教育、日本社会にとっての日本語教育をこの事業を通して考えていきたいと思っています。

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
地域日本語教育実践プログラムB

第1日目  
パネル展

事業実施概要

事業名称	「やさしい日本語」による社会参加のための日本語教育と「やさしい日本語」の地域への普及			
地域の課題	①外国人が自ら学びたいようなテーマ設定をしている教室が少ない ②日本語学習の目標が設定しづらく、モチベーションが上がらない ③地域住民は、「外国人と共に学ぶ」という意識が低い（外国人は支援される人、日本人は支援する人という構図） ④外国人に興味があっても外国人と接する機会がない ⑤外国人が生活していることを実感として感じられない日本人がいる ⑥各種団体が外国人を意識していない、興味を持っていない。自分には関係ないことだと考えている。			
事業の目的	「やさしい日本語」を外国人の日本語学習の指針とし、その「やさしい日本語」を活用して社会参加を促す。地域住民にも外国人とのコミュニケーションツールとして「やさしい日本語」を普及する。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	自分を表現するための日本語教室	名称	「マイライフストーリー」発表
	目的	自身の人生や思いを「やさしい日本語」でまとめる。	目的	発表に向けた練習による日本語力向上。地域住民の外国人理解の深化
	内容	自分の生い立ちや思いをテーマにした「マイライフストーリー」作文を完成させる。	内容	取組1で作成した「マイライフストーリー」の地域イベントでの発表。
	対象	在住外国人、ボランティア	対象	取組1に参加した外国人学習者
	時間	1回 2時間×30回(全60時間)	時間	1回 4時間×3回(全12時間)
	人数	20人(外国人10人)	人数	15人(外国人10人)
	取組3		取組4	
	名称	ボランティア団体と外国人住民のマッチング事業検討会議	名称	外国人出演による多文化共生ラジオ番組作成と発信
	目的	多くの機関で「外国人の社会参加」を考える	目的	FM番組のリスナーである地域住民が外国人の存在を知るきっかけを創出し、近くに住む外国人の理解を促進する
	内容	外国人の社会参加のために何が必要なのか当事者を交えて考える。	内容	1週間に1回3分間のラジオ番組内で、その句を詠んだ背景や、今の生活などを語ってもらい、FMのリスナーに楽しく、在住外国人について知ってもらう。放送された川柳は、冊子にし、地域のイベント等で配布する。
	対象	各団体代表者(会議体のため)	対象	在住外国人、ラジオ番組聴取者
	時間	1回 2時間×3回(全6時間)	時間	1回 1時間×26回(全26時間)
	人数	10人(外国人5人)	人数	26人(外国人26人)
連携体制	地域の大学、県立高校、国際交流協会、ボランティアセンター、FM栃木、社会福祉協議会、別地域の国際交流協会、各部署の外国人窓口など。 連携は団体同士だけではなく、在住外国人との各団体の連携、外国人同士、外国人と地域日本人との連携も促し、外国人の社会参加を図っていく。外国人に関係があるという団体だけではなく、一見外国人とは関係のないような機関がこの取組に参加できるようにする。			
成果と課題	日本人側には、外国人は「わからない人」ではなく、「話せばわかる人」だと感じてもらうことができた。これはまた、外国人が「やさしい日本語」を習得することの意義でもある。最低限の日本語を習得することは、日本人とコミュニケーションをとることができ、新しい世界を持つことが出来る、また、話さないことで起こる摩擦を減らすことができる。これは、外国人が社会参加するためにも重要な点である。今後、「やさしい日本語」を日本人の立場から考えるだけでなく、外国人側からの発信のツールとして考えていくことも重要だと感じた。			
参加者の皆様へ一言	連携先についての意見交換ができたらいいなと思っております。意外なところとのつながりや、つながってよかったと思う連携先などありましたら、ぜひ教えてください！！			